

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

2013年7月23日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科人間健康科学系専攻

職 名・学 年 リハビリテーション科学コース・修士2回生

氏 名 アウレリオ・カルバリオ・サンパイオ・リカルド

助成の種類	平成 25年度 ・ 若手研究者在外研究支援 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	第20回老年学・老年医学に関する世界大会		
発表題目	日本とブラジルにおける高齢者の身体的健康とQOLとの比較 / Comparison of Physical Health and Quality of Life in Older Adults in Japan and Brazil		
開催場所	COEX (Convention and Exhibition Center), 韓国・ソウル		
渡航期間	2013年06月23日 ～ 2013年06月27日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	100.000円	
	使用した助成金額	100.000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	学会登録	30.000
		往復航空チケット(KIX-Incheon 韓国)	18.000
		シャトル・タクシー「両空港」	12.000
		ホテル・4泊	18.000
	ソウル交通費・食事等	22.000	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)		

The 20th International Association of Gerontology and Geriatrics in Seoul, Korea

第 20 回老年学・老年医学に関する世界大会

2013. 6. 23 ~ 27 に関するレポート

京都大学教育研究振興財団事務局

アウレリオ・カルバリオ・サンパイオ・リカルド

2013 年 6 月 23 日~27 日に韓国のソウルで The 20th International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) の世界大会が開催されました。これは 4 年毎に開催される老年学及び老年医学分野で最も高く評価されている学術大会であり、世界を牽引する老年学者や老年医学者、関連企業及びその他様々な分野の優れた研究者が集い、近年の研究結果や発見の報告、本分野の在り方・展望についての討論が行われます。学会を通じた私の活動と学習した事を、本書面にて報告致します。

初めに、IAGG 2013 は実に大規模な学会でした。学会ではシンポジウム・口述発表・ポスター発表が同時に開催される程たくさんの発表があり、各国の様々な討論に参加することができます。私は特に、フレイルティー・サルコペニアの高齢者に対する身体活動トレーニング及びガイドラインについての発表や、高齢者の QOL (Quality Of Life)に関する発表が印象に残りました。

次に、本学会での私の活動に関してですが、最も大きな役割はシンポジウムでの発表でした。表題は“Comparison of Physical Health and Quality of Life in Older Adults in Japan and Brazil (高齢者の健康状態と QOL に関する日本-ブラジル間における比較)”であり、日本とブラジルにおけるライフスタイルや健康増進行動の違いに対するアプローチや、それらの要因がどの様に QOL に関わっているかに着目した発表を行いました。この発表は 6 月 26 日の午前 8 時から午前 9 時 30 分開催の“Quality of Life in Older Adults in Japan and Brazil”というセッションで行いました。議長は荒井秀典教授 (京都大学) が務め、エミリオ・モリグチ教授 (ブラジル) とセオ・サンパイオ・プリシラ・ユカリ氏 (京都大学大学院生) の 2 人が同セッションの演者でした。しかし、モリグチ教授は、北朝鮮と大韓民国の関係が不安定だったことが原因で大学からの認可が下りず学会に参加出来なかったため、議長の荒井教授が彼の代わりに発表を行いました。90 分のプレゼンテーションが終わり、私の発表に対して、「ライフスタイルの違い (特にブラジル在住高齢者におけるもの) が併存疾患や機能障害を含む健康状態にどのような影響を与えていると考えるか」という質問があり、有意義な討論を行うことが出来ました。

また、この学会を通し、私はブラジルの研究者だけでなくオーストラリアやイギリス、台湾やアメリカ等、他の国の研究者とも意見交換をし、新たな関係を築くことが出来ました。私が最も興味深かった発表は、ジョーン・マークレイ教授・荒井秀典教授らの高齢者のフレイルティーに関するもので、特に荒井教授の高齢者の虚弱状態の可逆性に関する発表に感銘を受けました。

発表以外にも、私と同僚のセオ・サンパイオ・プリシラ・ユカリ氏は “Aptare”

というブラジルの老年学及び老年医学専門誌からの取材を受けました。その取材で、日本の高齢化に関することや、我々の京都大学での研究である高齢者の介護予防に関する質問を受けました。この機会により、発表に加えさらに我々の見解を世界に伝えることが出来たと考えています。

以上の様に、本学会参加は私にとって、他文化の知見を持った研究者と意見交換ができ、高齢者研究に関する私の知識や見解を深めることができた素晴らしい機会となりました。最後になりましたが、このような機会を与えて下さった京都大学教育研究振興財団様には感謝の意を述べたいと思います。帰国後、得た知識や感銘を受けた事柄を我々の研究チームや同僚と共有することで、この経験をこれからのより良い研究の実現の一助にしたいと思います。

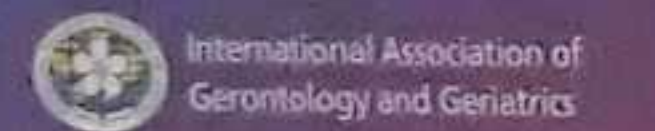


IAGG 2013

June 23-27, 2013
Seoul, Korea

THE 20TH
IAGG WORLD CONGRESS OF
GERONTOLOGY AND
GERIATRICS

Digital Ageing: A New Horizon for
Health Care and Active Ageing



International Association of
Gerontology and Geriatrics



The Federation of
Korean Gerontological Societies



THE 20TH IAGG WORLD CONGRESS OF
GERONTOLOGY AND GERIATRICS





Speakers



Comparison of physical health and QOL in older adults in Japan and Brazil



Ricardo Aurélio Carvalho Sampaio

Physical Education



Graduate School of Medicine, Kyoto University
Department of Human Health Science